# 「気づき・感じ・伝え合うことを大切にした安全教育の日常化」

令和５年度　高知県学校安全総合支援事業

土佐市教育委員会　拠点校　土佐市立蓮池小学校

## １　事業の目標

### （１）モデル地域の現状及び安全上の課題

土佐市は、高知県の中央部に位置し、東は仁淀川を隔てて高知市といの町、北は日高村と佐川町、南西は須崎市と海に隣接しており、洪水や土砂災害、台風等の自然災害が発生しやすい立地条件にある。過去に発生した南海地震の状況から被害の広域性や地域の孤立等の災害特性等も踏まえた対策を進めていく必要がある。

蓮池小学校は、令和４年度に引き続き本事業の拠点校である。市内で２番目に大きな規模の小学校であり、南海トラフ地震の津波浸水地域には想定されてはいないが、災害時には、地域住民の避難所に指定される。また、交通量の多い国道 56 号や県道 287 号家俊岩戸真幸線を徒歩で横断して登下校する児童も多く、通学路の危険箇所も多い。さらに校区が広いため、道幅の狭い箇所や見通しの悪い通学路もある。こうした学校を取り巻く様々な学校安全上の課題について、学校はもとより地域の関心も高く、地域の見守りボランティアの活動なども推進しており、蓮池小学校を拠点とした安全教育の取組内容を普及し、土佐市全体の安全教育の推進を図る。

### （２）モデル地域の事業目標

○日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、生涯を通じて安全な生活の基礎を培うとともに、安心・安全な社会づくりに貢献できる資質や能力を養うことを目指し、拠点校において「生活安全・交通安全・災害安全」の３領域において取組を実践する。

○拠点校の取組内容や成果を市内小中学校で共有し、各校に学校安全担当教員を位置付け、安全教育の取組を推進する。

○学校・家庭・地域が連携を図りながら、地域全体で安全教育に取り組む体制の構築を図る。

## ２　モデル地域の取組の概要

### （１）安全教育の充実に関する取組

#### ア　安全教育の充実に関する取組

・拠点校である蓮池小学校の実践的な取組を、実践委員会を通じて連携校である宇佐小学校、高岡第一小学校、高岡中学校の学校安全担当教員が自校の安全教育の質の向上に役立てる。

・実践委員会での報告や、研究発表会での実践発表（土佐市内小中学校へ案内）等で市内全体に普及を図る。

・学校安全担当教員を中心として、管理職とともに学校安全教育の計画、実施、検証を行い、危機管理マニュアルや学校安全計画の見直し等の改善・充実を図る。

・学校安全教員の資質向上を図るため、拠点校での公開授業を市内の小中学校に案内し、学校安全担当教員が参加し、外部有識者による講話を受け、各校の学校安全に係る改善や対策に活かしていく。

#### イ　安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

・各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている

学校の割合
・学校安全を推進するための学校安全担当教員（管理職以外）を校務分掌に位置付けている学校の割合
・学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合
・拠点校の取組について、自校の教職員に校内会議や研修等で共有した学校の割合
上記の評価指標において、評価・検証を行う。

**（２）組織的取組による安全管理の充実に関する取組**
・学校安全担当教員を中心として、管理職とともに学校安全教育の計画、実施、検証を行い、危機管理マニュアルや学校安全計画の見直し等の改善・充実を図る。
・学校安全担当教員の資質向上を図るため、拠点校の公開授業に参加し、外部有識者による講話を受け、各校の学校安全に係る改善や対策に活かす。
・様々な場面を想定した避難訓練の実施（年間３回以上）
・「危機管理マニュアル」の見直し・改善の実施
・拠点校による公開授業・研究発表会の実施（市内小中学校へ案内）

**（３）学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組**
・学校安全実践委員会で連携校と情報を共有し、自校の安全教育の取組の充実を図る。
・拠点校の取組（公開授業、防災キャンプ、研究発表会など）の中で、地域や各専門機関等、多くの講師を招聘し専門的な立場から助言を受けたことで、災害に対する認識を深め、拠点校だけでなく、参加した市内の学校安全担当教員の意識向上へつなげる。

## ３　拠点校の取組

**（１）拠点校の目標**
自ら学ぶ力を身に付け、生き抜く力をはぐくむ
～「気づき・感じ・伝え合う」ことを大切にした安全教育の日常化～
〇教科等横断的なカリキュラム・マネジメントによる安全教育の実践
〇国語科で身に付けた言語能力を意識した各教科等の指導の充実
〇「自ら考え伝え合う」ことを意識した指導の充実

**（２）具体的な取組**
**＜１年生＞**
「いのちをまもるにこにこたい　あんぜんにせいかつしよう」をテーマに、１学期は主に、日常生活や校内の安全な過ごし方、交通安全について学習した。日常生活や校内での安全な過ごし方については、教室での過ごし方や廊下の歩き方、自分の持ち物の片づけ方、遊具の使い方、トイレの使い方等、朝の会や帰りの会、学級活動の時間において繰り返し指導している。交通安全についても、入学してすぐに５年生から横断歩道の渡り方を教えてもらったり、第三木曜日には「蓮池パトロール隊」の方々と集団下校したりする中で、少しずつ安全を意識した行動が取れるようになってきている。

２学期は、１学期に学習してきたことを基に、校内や校外での安全な過ごし方について考えたり、遠足や生活科の校外学習において危険予測や解決策、工夫を話し合ったりしながら学習を進めてきた。今年度は、①「危険に気づき、安全な行動について考える授業作り」②「振り返りの内容や評価の工夫」の２つの視点を設定し、研究を進めた。

＜２年生＞

生活科や学級活動の学習を関連させ、「いのちをまもる　はすいけわくわくたんけんたい」を中心に、生活安全についての学習に取り組んだ。１学期は、自分たちの住んでいる地域を知ること、地域の人とつながることが安全教育の第一歩と考え、児童のおすすめの場所から行きたいところを決め、町探検を行った。町探検で気づいたことを伝え合い、より詳しく知ることで、地域への親しみや愛着が生まれるのではないかと考え、実践を行った。

２学期には、再度町探検に出かけ、児童の疑問や知りたいことを調査し、地域の方にインタビューをする中で、さらに地域への親しみや愛着を深められるようにした。その際、町探検を単なる活動で終わらせるのではなく、児童の気づきの質が高まるように伝え合う活動を工夫した。また、サツマイモの栽培や収穫、おもちゃ祭りなど、地域の方と関わる機会を多くとる中で、町のためにできることを考え、自ら進んで地域の方と関わりを持とうとする児童の姿を目指した。

今年度は①「自ら表現することで主体的に安全について考えさせる」②「伝え合う学習の場を工夫する」の２つの視点を設定し、研究を進めた。

＜３年生＞

総合的な学習の時間や特別活動、社会科の学習を関連させて、「自分の命を自分で守ろう～３年〇組 命を守り隊～」をテーマに、災害安全（震災・気象災害・その他の災害）についての学習に取り組んだ。１学期は、自然災害などから自分の命を守るためにどのようなことをすればいいのか、なぜそのような行動をとらなければならないのかという児童の疑問から学習を出発した。その中で、南海トラフ地震について調べたり、身近に起こった地震や土砂災害の新聞記事をとり上げたりすることで、知識として得た情報を行動に移せることができるのではないか、危機を予測し、回避するための具体的な方法や行動を自分の生活に結び付けて考えることができるのではないかと考え、実践を行った。

２学期には、防災１ｄａｙキャンプでの体験、消防署・警察署の見学を通して、知識として得た情報を実践・確認していくことで、自分ごととして捉えることができるようにした。

今年度は①「自分ごととして捉え、自分ができることを実践していく」②「知識として得た事を身近な人に伝えることができるようにする」の２つの視点を設定し、研究を進めた。

＜４年生＞

総合的な学習の時間において、「みんなを守ろうVision　Zero」をテーマに、交通安全についての学習に取り組んだ。１学期は、学校生活だけでなく、普段の生活でも安全に過ごすために、交通ルールや道路標識、校区の危険な所を調べ、マップにまとめる活動を行った。交通安全探検では、道路標識や横断歩道、カーブミラーを見つけたり、歩行者や自転車の人にとって危ない所を見つけたりした。それらを基に、マップを作成する際は、標識の絵を描いたり、付箋でマップに書き込んだりしながら、校区についてまとめた。

２学期以降は、１学期に作成したマップを基に、危険予測やそれを回避するための方法などを加え、バージョンアップをさせたマップを模造紙で作成したり、ストップシールを作ったりするなど、交通安全を身近な人や地域の人に発信するための活動を実践した。

今年度は①「自分ごととして捉え、自分ができることを実践していく」②「知識として得た事を身近な人や地域の人に伝える方法を考え、自分たちで作成して発信していく」の２つの視点を設定し、研究を進めた。

＜５年生＞

総合的な学習の時間や特別活動、社会科、理科、国語科を関連させて、「自分の地域は自分で守る～『助かる』から『助ける』へ～」をテーマに、災害安全についての学習に取り組んだ。１学期は、宿泊研修で実際に経験した大雨の災害をもとに、「自分たちの町は、近くに波介川があるけれど、大丈夫なのかな。」という疑問から学習を始めた。そこから「洪水をもたらす線状降水帯ってなんだろう。」と、その時期に発行されたいくつかの新聞を使って調べ学習を行った。そのうえで、高知気象台の方を招聘し、線状降水帯についての講話をしていただいた。また蓮池地区は津波が来ないといわれているものの、どこで津波の被害にあうかはわからない。そのため、地震の揺れや津波の発生についてのメカニズムについて、香川大学の金田先生にも講話をいただいた。

２学期には、１学期に習得した知識や２学期に教科で学ぶ知識を使い、自分たちの町を守るために出来ることを考えてきた。

今年度は、①「自分ごととして課題を捉えること」②「捉えた課題を自分たちなりに調査して発信すること」を視点に研究を進める。

なお、５年生の安全教育の中心は災害安全ではあるが、１学期は昨年度学んだ交通安全についての知識を他学年や保護者に向けて啓発する学習も行った。

＜６年生＞

安全教育のまとめとして、総合的な学習の時間において、「みんなを守ろう！安全マスター！」をテーマに３領域について学習を進めた。

１学期は、安全の知識を獲得するため、タブレットＰＣや本を活用して安全について調べたり、関係機関に協力していただいたりしながら授業を行った。また、実際に海まで行き、海の様子を見る活動や、船に乗って海から陸地を見るという体験活動も取り入れた。

２学期は、１学期に得た知識を活かして自分たちが考えた４つのゴール（漫画・絵本・ゲーム・ドラマ）を目指して取り組んだ。その際、児童が作り上げるものがさらによりよいものになるように、漫画家やドローン操縦（プログラミング）などの専門家にも協力していただくことを計画した。

３学期は、完成したものを実際に発信していく。全校児童に発信するだけでなく、地域の方々や近隣の保育園にも発信していくようにする。そうすることで、児童が目標としているものが現実的になるのではないかと考えた。

### （３）取組における成果と課題

＜成果＞

・これまでの安全教育の取組により、子どもたちの安全に対する知識が増え、安全に対する意識も高まりつつある。特に、自転車ヘルメットの着用率は 100％である。

・自主学習や自由研究等、安全に関することを自らが調べ、学習しようとする児童が増えてきている。また、代表委員会での話し合いにも、安全に関する議題が出るようになり、子どもたちの中で、安全が日常化していると感じられる場面が増えてきている。

・教科と関連させて安全の学習を行うことで、子どもが学習したことを家庭にも伝える機会が増え、子どもだけでなく、保護者の安全への関心の高まりにもつながってきている。

・教職員から、新聞やテレビ等で安全に関する内容が取り上げられた際に、よく意識して見るようになった、という声が聞かれるなど、教職員自身の安全への関心が高まっている。

＜課題＞

・校内での子どもたちには、右側通行ができない、廊下を走ってしまう等、まだまだ安全を優先した行動となり得ていない姿が見られる。学習と行動をどのようにして結びつければよいのか考え、現状に合わせた安全教育を具体的に行っていく必要がある。

・児童が主体的に学べるような授業を目指して研究を行ってきたが、児童発の学習や活動は少なく、まだまだ教師主導の学習、活動となっていることがある。児童は、学校安全に関する知識が身に付いてきているので、今後は児童発の学習や活動ができる授業を作っていきたい。

## ４　事業の成果と課題

＜成果＞

本事業を推進する中で、モデル校の取組を通して連携校の３校だけでなく、すべての市内小中学校へ安全教育の実践的な取組内容共有することができた。

土佐市内小中学校の安全教育担当教員を中心として、各学校において、学校安全計画及び危険等発生時対処要領（危機管理マニュアル）の策定が義務付けられており、法律上義務付けられた学校安全計画等の策定は、どの学校に通っていても児童生徒等が安心して学校生活を送ることができるようにするために必要最低限のものであり、拠点校の計画や実践・取組内容を参考にし、修正・改善に活かすことができた。

拠点校の公開授業や研究発表会で、多くの外部有識者の講話を聴く機会があり、市内の安全教育担当教員の安全教育への意識向上につなげることができた。

拠点校の蓮池小学校では、安全教育を研究主題に設定し、生活科、総合的な学習の時間、特別活動を中心にそれぞれの教科等のねらいや視点に沿った実践により教科等横断的な安全教育モデルを構築することができた。

地域や各専門機関等、多くの外部講師を招聘し児童の活動について専門的見地から助言を受けたことで、より具体的で精度の高い情報を得て質の高い学びの機会を得ることができた。防災や交通安全、防犯について、地域や保護者とともに考え意識の向上につながるとともに各関係機関との強固なつながりが生まれ、学校安全体制の強化につながった。

また、地域や各専門機関等多くの講師を招聘し、児童の活動について専門的な立場から助言を受けたことで災害に対する認識を深め、児童が意欲的に活動に取り組むことができた。

こうした学校安全の取組により、児童の学びに対する姿勢に変化が見られ、特に学級活動や総合的な学習の時間に交通安全をテーマに探究的な学習に取り組んだ学年を中心に、安全に関する学習だけでなく、国語科や算数科などをはじめ、どの時間の学習においても授業に参加する眼差しが積極的なものへと変わってきている。

＜課題＞

拠点校では、各教科等の中でいかに安全教育を実現していくか、手法の開発や指導の工夫改善に主眼を置いて取り組んできた。「何が身についたか」「何ができるようなったか」が研究の中心であった。さらに今後は、実践の結果「何が身についたか」「何ができるようになったか」という視点で取組の成果を児童の安全に関する知識・技能、態度等をもとに検証し、改善を図ることが必要である。

学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科等横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助、共助、公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて、各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し教育課程を編成することが重要であり、今後の課題である。

## 5　今後の取組の見通し

安全教育の３領域について、年間計画を基に全校で取組を進める中で、子どもたちに安全に関する知識はある一定身についてきているが、学習したことを行動に移すことができるよう、子ども自身が自分の生活を振り返り、改善していくことができるよう、指導のさらなる工夫が必要である。

また、知識の定着や意識の変容、行動観察以外にも安全教育の効果を検証する方法をさらに検討していきたい。

学校安全の活動を効果的に進めていくためには、安全教育、安全管理の活動を学校の運営組織の中に具体的に位置付けることが重要であり、教職員の役割分担と連携は、全教職員の共通の理解の上に立って各自の適切な行動に結び付けられるよう、形式的なものではなく機能的で実践的なものとすることが重要になる。

この拠点校の取組をモデル校のみならず、今後は市内学校を含め、連携していく学校を広げて土佐市全体で安全教育を推進していく。